

三重県桑名地区あたりでの患者様の増加に対応していくということから設立されたものです。この透析センターの特徴の一つとしては、リハビリ病院に併設しておりますので、リハビリ的な治療を受けやすいということがあります。私も必要に応じて透析を受けられる方の回診をさせていただいており、いろいろなご要望に応えていきたいと思っております。

では、透析とリハビリや神経の病気との関わりなどについて少しお話をしておきたいと思えます。

維持透析をされている方では、全身的な体力の低下が進んできたり、透析による血液電解質の変化のため、筋肉痛やこわばりなどの症状があらわれることがあります。手足の運動能力というのは、使わないと少しずつ低下していきます。このことを廃用症候群といいます。日常的にも歩く距離が減ってきたり、家事動作などでもこれまで楽に出来ていたことが難しく感じたりするなどの経験があるかも知れません。これらは「年のせい」や「病気のせい」と思われる部分もあるかも知れませんが、専門医からみますと、廃用症候群の場合が多く、使わないで衰えていった力、働きの占める割合はとても大きいものだと思っております。これに対しては、一番簡単なことは「今出来ていることは、そのまま続けていく」という考えが大事です。体調など日々いろいろと変わっていくとは思いますが、自分でできることはなるべく続けて行って、自身で出来ることを継続していくことが重要だと思っております。

また、維持透析をつづけていると、血管が痛んでくることが知られております。糖尿病など元来の病気によるもの、透析に伴ってカルシウムなどが血管に沈着し動脈硬化を引き起こすことなどが主な原因ですが、血管が痛んでくることから、脳血管障害や狭心症などの重篤な病気があらわれることがあります。偕行会グループは、透析治療を受けているかたの血管病変を予防することによりかなり注意を払っておりますので、必要な検査や予防法などにつき、最寄のスタッフにご相談いただき、注意をはらっていただきたいと思えます。

私は、偕行会リハビリ病院での勤務のほか、名古屋共立病院では、神経内科として外来担当もしております。もし神経に関する病気やリハビリについて何か相談があれば、他施設の方でもご相談に乗っておりますので、ご利用いただければと思えます。今後ともよろしく願いいたします。